

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行：県立多治見病院 緩和ケアチーム VOL.9 2011年 12月号

文責：山本 知枝子 編集：小木曾 理佐

* 緩和ケアチーム スタッフ紹介 *



山本 知枝子

緩和ケア病棟師長の山本 知枝子です。私は愛知県で生まれ、3歳ごろから岐阜県に移住しました。私の名前の由来は、姉が美枝子で、私が知枝子、愛知県の知をとって、この漢字にしたそうです。しかし、親は楽しんで付けたような由来で、自慢できるような名前ではないですがチエコという響きは好きです。私の体型から想像できると思いますが、中学の時はバスケット、高校ではバレーをやっていました。社会人になってからは、テニスを始めましたが、このころはブームで、病院の中にもチームがあり、夜遅くまで練習した覚えがあります。

私が看護師になったきっかけは、姉の影響がありました。姉がすでに看護師として働いており、親から安定した職業、女性も資格をもって働くことが必要と勧められ看護師になりました。就職した当時は、看護職を選んだ自分に後悔をする毎日でしたが、患者さんやご家族の方々の関わりにおいては、苦悩することはありませんでした。患者さんからの「ありがとう」「助かるよ」という言葉一つで、つらい思いが解消され、明日からまた頑張るぞ！という気持ちになれました。そのおかげで、30年近く看護を続けられました。

この歳月の中で、子どもを育てつつ、40歳後半から緩和ケア認定看護師教育課程に行き、その後、がん看護専門看護師になるため、大学院に行きました。親からは「自分の事だけでなく、子どもにもっと手をかけてやりなさい」と言われながらも、自分のやりたいことをやってこれた私です。振り返ってみると、自分のやりたいことをやれる恵まれた環境でいれたことに対しては感謝しています。

私の役割として、緩和ケア病棟では、利用されている患者さんやご家族の方たちが、安全・安楽に過ごすことができるように病棟管理を行い、病院全体としては、緩和ケアチームの一員として、一人でも多くの方たちが、笑顔で穏やかに過ごされるよう努めていきます。これから後数年程度しか働ける期間がありませんが、緩和ケア病棟だけでなく、病院全体から地域の緩和ケアの充実に少しでも貢献できるよう活動していきたいと思っています。



Merry Christmas!



1月の勉強会予定

12日 第6回緩和ケア勉強会

時間：18時～19時半

場所：診療本館3階講堂

内容：気持ちのつらさ（緩和ケア病棟看護師：奥村 あすか）

緩和ケアチームスタッフからのお話

（リハビリテーション科 作業療法士：寺下 美智子／リハビリテーション科 言語聴覚士：市原 邦夫）

